



バッハの森通信

第111号
2011年
4月20日発行

財団法人筑波バッハの森文化財団

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

<http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 (財)筑波バッハの森文化財団



コラールを歌う仲間

震災後の不安を克服して生きよう

皆様、ご無事でしたか。大地震と大津波で壊滅した東北・関東の太平洋沿岸地方、収束するあてがない原発事故による放射能汚染、いつまでも続く余震。大震災から1ヶ月半たった今も、不透明な未来に不安を感じる気分が日本中を覆っています。確かに、被災者を応援する善意が日本全国はもとより、世界各地から寄せられ、被災地では復興が始まりましたが、私たちが震災前の日常生活に戻る日は、まだまだ遠いようです。

幸いバッハの森の建物は被害を受けませんでした。しかし、私たちの活動を支えてきたアーレント・オルガンは相当破損し、しばらく使用できなくなりました。(オルガンの修復については次頁に報告しました)。そのため、3月20日に予定していた、ヴォルフガング・ツェラー氏のオルガン・コンサートは中止せざるをえませんでした。また、3月12日に開くことになっていた、春のシーズン終了の集いも延期しました。

* * *

このようなわけで、延期したシーズン終了の集いを、2週後の3月26日に開きました。その前にあった財団法人の役員会に参加した人たちとクワイアのメンバーを中心に16人集まりました。まだ道路事情や交通機関が不安定だったので、暗くならないうちに散会することとし、短い安否確認と事務連絡の後、約30分間、ポジティブ・オルガンの伴奏で、ただただコラールを何曲も歌いました。

「み神のみ業はことごとく善し」(Was Gott tut, das ist wohlgetan)、「喜べ、わが魂、憂いを忘れ」(Freu dich sehr, o meine Seele)、「主よ、喜び」(Jesu, meine Freude) など。普段でも、バッハの

森で、皆と一緒にコラールを歌っていると、徐々に皆の思いが高揚していくのを感じるものですが、この日は皆、初めから感動して歌っている雰囲気でした。

み神のみ業は／ことごとく善し。
みこころのままに／従いまつる。
わが神、わが主は／悩みのときの
わが助けなり。

1945年の終戦を体験した私を除けば、これほど皆が一様に社会的不安を感じる経験をしたことのない人たちばかりでした。そのため、16世紀、17世紀のコラール作詞家が、不安を覚えながら作詞した状況を、はからずも初めて追体験したのでしょう。いつも以上に、コラールの歌詞が胸に響いていたようでした。

* * *

それにしても、これほどの大災害に遭って、なお「み神のみ業はことごとく善し」と、歌えるのでしょうか。津波に襲われた町や村が瓦礫の山と化し、それが延々と続く情景をテレビで見ていると胸が痛くなります。それ以上に、これもテレビで、肉親や親友を一瞬にして失った人たちが紹介されるたびに、彼らの喪失感を思い、つい貫い泣きしそうになります。(私自身、2年数ヶ月前に妻を亡くした喪失感をいまだに引きずっていますから)。

それにもかからず、「み神のみ業はことごとく善し」と、300年前に歌ったコラール詩人は、これらすべての災害の中で、自分は生きている、いや、生かされている、ということが「神のみ業だ」と悟ったのです。だから、愛する人を喪失した思いがどれほど深くても、生かされている限り、「生きなければならぬ」ことが分かったのです。

バッハの森は、このようなコラールを歌う仲間の集まりです。断っておきますが、バッハの森では、クリスチャンかどうかは問題にしません。コラールには、人間なら誰でも感じるができる普遍性があります。あなたも、私たちと一緒にコラールを歌う感動を味わってごらんになりませんか。

(石田友雄)

被災したオルガンの修復

前号の「バッハの森通信」の巻頭言で、4月から発足予定の「バロック教会音楽研究会」について報告しました。「バッハを本格的に学ぶための3年コース」として、バッハの森のオルガンの維持のために、敢えてオーディションをして、四六時中オルガンを弾く受講生を集めるという計画でした。しかし、この計画は見事に失敗しました。受講生が集まらないうちに、大地震でオルガンが大破してしまったのです。今はオルガンの維持が問題ではなく、修復が緊急の課題になりました。

22年前にユルゲン・アーレントが、このオルガンを建造したときから、ヴォランティアでオルガンの調整をしてきてくださった三橋利行さんが、引退したユルゲンの後を継いだ息子のヘンドリックに、電話でオルガンの破損状況を説明してくださいました。その後で、私がメールで修復を依頼したところ、2人で3週間、実費で20,000ユーロで修復できるだろう、と見積もってくれました。ただ、今は多忙を極めているから今年一杯、日本へは行けそうもないと付記されていました。彼が多忙なことは事実でしょうが、どうも放射能汚染が収束するまで、外国人は誰も日本に来てくれないようです。

それでも三橋さんが、これ以上、余震でぶつかり合って傷まないように、パイプを30数本抜き取り、本体の耐震工事を始めてくださいました。お陰で、地震で前に傾いた本体が真っ直ぐになりましたから、これで少々強い余震が来ても、オルガンが倒れることはないでしょう。

来月、三橋さんは学会に出席するためヨーロッパに行くので、ヘンドリックに会い、オルガン修復の手順についてよく相談して下さることになっています。大破した福島原発と同じように、今のところ、いつ修復できるか分かりませんが、原発とは違って、一旦着手すれば、約1ヶ月で修復できる見通しです。いずれにしても、オルガンの修復状況については、逐次報告いたします。

さて、実費20,000ユーロを基礎に、諸経費を加算して、オルガンの修復費として350万円の予算をたてました。これは、バッハの森の経常会計からは到底まかなえない金額ですので、敢えて会員の皆様に特別募金を呼びかけたところ、1ヶ月の間に、33名

の方々から50数万円のご寄付がありました。大変、有り難い、嬉しい応援です。今後、更に多くの皆さんのご参加があることを期待しています。

バッハの森は、多分、今年一杯、オルガンなしで活動しなければならなくなりました。アーレント・オルガンが素晴らしいオルガンであっただけに、その響きを失ったことは、もとより大変残念なことです。そのため、オルガン曲はもとより、カンタータが演奏できなくなったことは痛手です。しかし、バッハの森の音楽活動の原点が、会衆歌のコラールであることを考えると、しばらくの間、オルガンに頼らずに、コラールの斉唱と合唱に専念するのは、悪いことではありません。大地震と津波と放射能汚染で被災された方々のことを思えば、しばらくオルガンが使用できなくなったことなど、小さな試練です。今まで以上に、前を向いて、バッハの森独自の喜びと感動に溢れる活動を続けていきましょう。

(石田友雄)

LETTERS/レターズ/手紙

復帰しました

2011年3月8日
シュヴェリン大聖堂聖歌隊

友雄さん、バッハの森の皆さん

貴方がたからのご挨拶、本当にとっても嬉しく拝見しました。はるか遠く離れていても、友だちがいるのは素晴らしいことです。送ってくださった写真も私たちの楽しい思い出を呼び起こしました。私たちはよく皆さんのことを考えています。

2010年は、私にとって今まで予期したことがない経験の年となりました。1月の事故の後、ハンブルクとシュヴェリンで長いリハビリをしましたが、全部で4ヶ月かかりました。夏から私は再び働いています。2週間前に全ての金属板が手から取り除かれました。怪我の結果、手の関節を動かすことがとても難しくなり、特に手を内と外に廻すことはとても痛みます。大変嬉しい感謝すべきことに、それでも私はオルガンを弾くことができます。そこで9月から再び大聖堂の礼拝でオルガンを弾き、今度の夏には数回、小さなコンサートも予定しています。クラヴィア・レッスンが大変な助けになっています。私はそれを毎月ベルリンで心理学とクラヴィア演奏の

専門家から受けています。

合唱団も当然私の怪我の影響を受けました。そこで、シュヴェリン大聖堂聖歌隊の今年の計画は、小曲（ヴィドールとヴィルネのミサ）です。しかし、特にハインリヒ・シュッツの多声モテットは楽しみです。

マインデルトは学校で一日中とても忙しくしています。彼は9歳から12歳の子供たちを教えています。しばしば骨の折れる仕事ですが、とても楽しんでます。

皆さんのお手紙から、バッハの森もさらに活発に活動なさっていることが分かります。合唱、オルガン、セミナーと、私たちが羨むような大きな宝物を持っていらっしゃるようです。

まだ冬が居座っていて、私たちの家の前の池も凍っています。しかし4ヶ月の寒い冬の後にもうすぐ春がくるのを待っています。

古い友情のうちにご挨拶いたします。

ヤンとマインデルト

2011年3月12日

シュヴェリン大聖堂聖歌隊

友雄さん、バッハの森の皆さん

早速、ご連絡、有り難う。皆さん、お元気とのこと、有り難いことです。オルガンの損傷が局所的なことを願っています。海岸の被災地の人たちには深く同情します。遠くから貴方たちのことを考え、ご挨拶を送ります。

ヤンとマインデルト

* * *

2011年3月14日

シュヴェリン大聖堂聖歌隊

友雄さん、バッハの森の皆さん

友雄さんとバッハの森の皆さんがどうなさっているか、心配しています。日本の海岸地帯の恐ろしい光景には本当に悲しくなります。原子炉が壊れたというニュースに落ち着きません。勿論、皆さんも、ことの成り行きを心配していらっしゃることでしょう。ドイツのテレビは、多数の特集を組み、長い報告で一杯です。3月11日以来、メディアがこれほど沢山伝えるニュースはありません。私たちも動揺して、皆さんのことを考えてしまいます。荒廃した海岸地方の情景は忘れることができません。このような大災害と原子炉の破壊に直面しても、日本の人たちが平静で落ち着いているのに驚いています。

さよなら。

ヤンとマインデルト

* * *

皆さん、ご無事ですか

2011年3月11日

シュヴェリン大聖堂聖歌隊

友雄さん、バッハの森の皆さん

テレビで地震の恐ろしい光景を見ました。つくばの皆さんがお元気なことを願っています。短くていいから生きているしるしをいただければ感謝です。

ヤンとマインデルトからご挨拶いたします。

* * *

日誌 (2011.1.1 - 3.31)

- 1. 7, 14, 21, 28 運営委員会 参加者3名、4名、4名、4名。
- 1. 8 大掃除 参加者11名。
- 1. 21 打ち合わせ 鈴木靖夫氏、黒沢建一氏（鈴木会計事務所）参加者4名。
- 2. 4, 18, 25 運営委員会 各参加者4名。
- 2. 18 打ち合わせ 鈴木靖夫氏、黒沢建一氏（鈴木会計事務所）参加者4名。
- 2. 25 打ち合わせ 鈴木靖夫氏、黒沢建一氏（鈴木会計事務所）参加者4名。
- 3. 4, 11, 18, 25 運営委員会 参加者4名、4名、3名、4名。
- 3. 11 大地震 オルガン破損。
- 3. 18 オルガン点検 三橋利行氏。

- 3. 26 春のシーズン終了の集い 参加者16名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

「コラールとカンタータ」(JSB)

- 1. 15 第313回（新年祭）、カンタータ「イエスよ、さあ讃美を受けてください」(BWV 41)；オルガン：J. S. バッハ「旧い年は過ぎ去った」(BWV 614)、J.=Ph. メルカールト。参加者16名。
- 1. 22 第314回（顕現祭後第1主日）、カンタータ「私の愛しまつるイエスは失われた」(BWV 154)；オルガン：J. G. ヴァルター「私のイエスを私は放さない」、笠間キヨ子。参加者16名。

- 1.29 第315回 (顕現祭後第2主日)、カンタータ「私の神よ、いつまで、ああ、いつまでですか」(BWV 155) ;オルガン:「救いは私たちにあちから来た」、米永浩美。参加者20名。
- 2.9 第316回 (マリア潔め祭)、カンタータ「平安と喜びをもって私はかなたへ行く」(BWV 125) ;オルガン:J. S. バッハ「同上」、安西文子。参加者15名。
- 2.12 第317回 (顕現祭後第3主日)、カンタータ「私は片足で墓穴に立っています」(BWV 156) ;オルガン: H. シャイデマン「深い悩みより私はあなたに叫びます」、海東俊恵。参加者13名。
- 2.19 第318回 (顕現祭後第4主日)、カンタータ「イエスが眠っておられる。何を私は望むべきか」(BWV 81) ;オルガン:J. S. バッハ「イエスよ、私の喜びよ」(BWV 610)、古屋敷由美子。参加者16名。
- 2.26 第319回 (七旬節)、カンタータ「私は神の心と思いに私の心と思いを委ねた」(BWV 92) ;オルガン:J. G. ヴァルター「私の神がのぞまれること、それが常に起こるように」當眞容子。参加者16名。
- 3.5 第320回 (六旬節)、カンタータ「ちょうど雨と雪が天から降り」(BWV 18) ;オルガン:J. S. バッハ「アダムの墮罪により全く腐敗した」(BWV 637)、海東俊恵。参加者15名。
- 3.12 第321回 (エストミヒ) 前日の大地震のため中止。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 1. 15 /14名、1.22/18名、1. 29/20名、2. 5/15名、2. 12/14名、2. 19/ 16名、2. 26/19名、3. 5 /16名、3. 12/中止、3. 26 (春のシーズン終了の集い) /16名。
- バッハの森・ハンドベルクワイア 1. 15/6名、1. 22/6名、1. 29/6名、2. 5/6名、2. 12/中止、2. 19/5名、2. 26/ 6名、3. 5/6名、3. 12/ 中止。
- 教会音楽セミナー (1) 1. 12/5名、1. 19/5名、1. 26/5名、2. 2/5名、2. 9/6名、2. 16/7名、2. 23/6名、3. 2/7名、3. 9/6名、3. 16/ 中止。
- 教会音楽セミナー (2) 1. 25/4名、2. 22/6名、3. 15/中止。
- 入門講座: 聖書を読む 1. 15/8名、1. 22/8名、1. 29/7名、2. 5/8名、2. 12/6名、2. 19/5名、2. 26/7名、3. 5/8名、3. 12/7名。
- 聖書ヘブライ語 1. 15/7名、1. 22/8名、1. 29/7名、2. 5/7名、2. 12/6名、2. 19/4名、2. 26/6名、3. 5/7名、3. 12/中止。
- レチタティーヴォを歌う 1. 15/7名、1. 22/7名、1. 29/6名、2. 5/6名、2. 12/5名、2. 19/6名、

2. 26/6名、3. 5/6名、3. 12/中止。

オルガン鍵盤和声 1. 12/5名、1. 19/5名、1. 26/5名、2. 2/4名、2. 9/3名、2. 16/6名、2. 23/5名、3. 2/5名、3. 9/4名、3. 16/ 中止。

オルガン教室 1. 12/3名、1. 19/4名、1. 22/2名、1. 26/3名、2. 2/4名、2. 5/2名、2. 9/3名、2. 16/4名、2. 19/2名、2. 23/4名、3. 2/4名、3. 5/2名、3. 9/4名、3. 16/ 中止。

オルガン&ポジティブ練習 1. 11/4名、1. 12/1名、1. 13/1名、1. 14/1名、1. 15/1名、1. 18/2名、1. 19/2名、1. 20/3名、1. 21/4名、1. 22/1名、1. 25/2名、1. 26/3名、1. 27/2名、1. 28/3名、1. 29/1名、2. 1/3名、2. 2/2名、2. 3/2名、2. 4/4名、2. 5/2名、2. 8/4名、2. 9/1名、2. 10/2名、2. 12/2名、2. 15/3名、2. 16/2名、2. 17/3名、2. 18/2名、2. 19/2名、2. 20/2名、2. 23 /3名、2. 24/2名、2. 25/3名、2. 26/2名、3. 1/3名、3. 2/3名、3. 3/2名、3. 4/2名、3. 5/3名、3. 8/3名、3. 9/1名、3. 10/1名、3. 11/1名、3. 23/1名、3. 29/1名。

寄付者芳名 (敬称略日付順) (2010.12.21 - 2011.4.20)

下記の方々から計43,000円のご寄付をいただきました。

建物維持積立寄付 (敬称略日付順)

下記の方々から計549,000円のご寄付をいただきました。

オルガン修復基金 (敬称略日付順) (2011.3.11 - 4.14)

下記の方々から計529,000円のご寄付をいただきました。
